

令和8年度第1回安城市総合教育会議

日 時 令和8年7月16日（木）
午後3時から午後4時30分
場 所 教育センター2階 会議室
出席者 市長 三星 元人
教育委員会 石川 良一 教育長
加藤 滋伸 教育長職務代理者
久恒 美香 委 員
深津 敦司 委 員
松林 亜紗子 委 員

出席する職員 林 武宏 企画部長
久野 正史 企画部行革・政策監
長谷部 朋也 教育委員会教育部長
澤田 一樹 教育委員会生涯学習部長
池田 貴之 企画部企画政策課長
神谷 昌信 教育委員会総務課長
足立 雅之 教育委員会学校教育課長
杉浦 俊洋 企画部企画政策課課長補佐
澤田 佳紀 教育委員会学校教育課課長補佐
杉本 慎吾 教育委員会総務課庶務係長
飯島 阿弥子 企画部企画政策課企画政策係主査

傍 聴 者 2人

次 第

1 開 会

2 市民憲章唱和

3 あいさつ（要旨）

【三星市長】

教育委員の皆様には、日ごろから本市の教育行政に格別の御理解と御支援を賜り、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本日の議題は、「安城市における生徒指導上の諸問題の現状」と「安城市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の報告について」の2点となります。

委員の皆様の様々なお見識からご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願い致します。

【石川教育長】

皆様には、日ごろより教育行政に対し、格別のご理解とご支援をいただき、感謝申し上げます。

1 学期の間に、29 校ある小中学校のうち 8 校を訪問しました。授業中の子どもたちや先生方の様子を見せていただき、各校の状況について伺いながら助言を行っておりますが、中学校訪問では、今年度から開設した校内教育支援センターも拝見しました。専任の人材が配置され、子どもたちが安心して入れる空間になっていると感じました。学校からも、人員が増えたことで成果を実感していると伺い、ありがたく思っております。

また、ここ数年で個別事案の様相も変化しており、子どもの失踪事案などがその例です。かつては「家出」と捉えられていたものも、子どもからは「一刻も早く家を出たい」「両親の顔を見たくない」といった切実な思いが語られます。親御さんに話を伺うと、本人が施設に行きたいならお願いしたいと言われることもあり、子どもが置かれている状況の深刻さを痛感しています。

現在は中学校区ごとにスクールソーシャルワーカーを配置いただいておりますが、問題行動には一つの要因だけで説明できない複雑さがあります。接する大人が丁寧に聞き取り、人間関係を築いていくことの難しさが、学校現場にはあると感じています。

さらに、社会のデジタル化が進む中で SNS のトラブルが増え、最近では生成 AI との関わりも出てきています。子どもたちの人間関係の希薄化や、言葉の力の低下、他者への関心の低下、孤立化も進んでおり、現場としては日常的な課題となっています。

子どもたちが未来に希望を持ち、その子らしく生きる力を育んでいくために、私たち大人がどのような社会をつくるべきか、また、そのためにどのような教育を進めるべきかを、それぞれの立場で自分事として考え続けていく必要があります。こうした議論を止めてはならないと、日頃から考えております。

本日の会議も、安城市の市政の方向性と教育の方向性を重ねながら考える機会にできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

4 議 題

議題（１）安城市における生徒指導上の諸問題の現状について

（学校教育課課長補佐説明）

【三星市長】

ただいまの説明に対してのご意見・ご感想、ご質問等をいただきたいと思います。

【久恒委員】

不登校について、スクールソーシャルワーカーの活躍もあり市の不登校率は減っているということですが、令和 7 年度は増えています。特に小学校は以前より増えたように見えますが、この原因についてはどう分析していますか。

【学校教育課課長】

原因については分析していますが、なぜ昨年度、一気に跳ね上がったのか明確なものが出ていないのが現状です。

【加藤職務代理】

不登校について、相談先に教育センター心理士とありますが割合は非常に少ないです。これは、教育センターにいる方や適応教室にいる心理士を指しているのでしょうか。相談件数としては多いように思えますが、学校にいないので、率としては低くなるということでしょうか。

【学校教育課課長】

ご指摘のとおりです。心理士の相談枠は2か月待ちということも聞いています。

【深津委員】

不登校の原因について、家庭内に何らかの原因があるケースが多いと考えていますが、そういった場合、子どもたちは相談ができず親からの連絡もない状況があると思います。教員が家庭内に踏み込んでいくことはできないのでしょうか。相談自体は親御さんからの相談が多いですか。

【学校教育課長】

学校側からの相談もありますが親御さんからが多いです。1つの事例として、家の方が仕事を優先されていて、子どもは家にいてくれればそれでいいという考えのご家庭もあります。そういった場合、相談につなげようと思ってもなかなかつながらないケースになるのかなと思います。

教員が家庭訪問をして、保護者の方の様子を見ることはできるかもしれませんが、踏み込んだ対応をするというのは難しいです。

【久恒委員】

不登校に関して、学校以外に相談先がないと書いている割合が小学校47.6%、中学校では62.6%となっており、学校以外に相談先がないのはよくないと感じています。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを手厚くしてはどうでしょうか。

【学校教育課長】

増員は予算が関係する問題なのでなかなか申し上げにくいですが、関係者、それぞれの立場で精いっぱいやっていただいていることは事実ですので、市の方とも相談しながら考えていきたいです。

【松林委員】

話がずれてしまうかもしれませんが、部活動の地域移行について感じたことを。自分も中学生の娘がいますが、月謝の管理や体育館の予約など、今までなかった保護者の負担が大きいのかなと感じています。部活動からの移行期に、数名の子が、保護者が協力できないからと地域移行の方には参加しないことになりました。

本人たちが続けたくても、家庭の事情から続けられないケースが今後出て部活動をやめてしまうのは寂しいかなと感じています。

【三星市長】

現在は土日だけですが、平日も含めて地域移行していくことも考えると、送迎や月謝などの保護者の負担が増えてしまう懸念はあります。

ただし地域展開ならではのメリットというところもありますので、この件については今度も丁寧な議論をしていきたいと思っています。

【久恒委員】

いじめについて、先日、子どもたちのやり取りを見て感じたことがあります。女の子たちが男の子に対して「かっこいい」と声をかけたところ、男の子は「それっていじり？」と反応しましたが、母親は女の子たちに「ありがとう」と答えていました。子どもと保護者で受け止め方に差があると感じた場面でした。

関係性が分かっていれば、それが褒め言葉なのか、いじめの始まりなのかを判断できるかもしれません。しかし、保護者や地域の方は普段学校にいるわけではないため、誤って受け取ってしまうこともあると思います。また、保護者が何かあるとすぐに「いじめだ」と決めつけるのではなく、本人がいじめと感じればいじめではありますが、状況を把握した上で判断する必要があります。そうした難しさを感じました。

学校の先生を含め、さまざまな人が関わりながら、子どもたちを適切にケアしていけるとよいと思います。

【石川教育長】

いじめの訴えについては、当事者や家庭によって受け止め方に差があるため、学校ではアンケートや面談を通じて丁寧に事実確認を行っています。一方で、事案の軽重や認識の違いにより、学校と家庭の間で対応に行き違いが生じることもあり、調整の難しさが課題です。こうした状況を踏まえ、学校だけで対応を抱え込まず、第三者の視点を含めた支援体制の充実が必要と考えています。なお、文科省では、問題解決支援チームという取り組みをしており、第三者によるアプローチを進めようとしています。

【深津委員】

親御さんと学校の担任の先生の信頼関係ができていないことも原因だと思います。コミュニティスクールにおいて、親御さん、おじいちゃんおばあちゃんにも学校に入ってもらえるような形にできればいいのかなと感じました。

【久恒委員】

知人のお子さんの話ですが、近隣市の学校で先生をしていたものの、保護者間対応に追われ、最終的に退職してしまったという事例がありました。子どもたちが楽しく過ごせるように支援することが、先生の最も大切な役割だと思いますので、精神的に疲弊して離職してしまう先生が出ないような学校支援チームを整えていただきたいと思います。

【加藤職務代理】

先生や学校が困ったときは教育委員会に相談があるのですが、教育委員会も相談を受ける指導主事、教員経験者の数が非常に少ない状況です。学校支援チームという組織的なものをしっかり作って、そこに相談できるという体制があれば、先生たちや学校を救いながら、ひいては保護者や子どもたちのためになっていくのではと思います。

【三星市長】

諸問題の現状について皆さんに共有させていただきましたが、本当に問題は山積みになっているというところです。今日この場で解決策が見つかるわけではないと思いますので、皆さんと共に知恵を絞って、少しでも解決できるようにと考えています。よろしくお願いいたします。

議題（２）安城市立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の報告について

（学校教育課長補佐説明）

【三星市長】

これはまだまだ完成形ではなく、本来の完成形にはまだまだという状態でしょうか。

【学校教育課長】

半年以内に作らなければならず、どの市町も作成に苦慮している状況です。他の市町ではもっと簡略化したものもありましたが、意味のあるものにしたいと考え、お示しした形で作成しました。

今後は、随時学校の声聞きながら改良したいと考えています。

【三星市長】

先ほどの議論でもありましたが、学校の現場の先生方が疲弊してしまって、本来の教員としての仕事に支障が出てくるところは回避していきたいと思います。働き過ぎになっている部分についてはさらに改善を図っていく、そのロードマップかなと思います。

【深津委員】

学校以外が担うべき業務について、地域の協力がかなり必要かと思うのですが、コミュ

ニティスクールに関する部分は少ししかなかったと感じています。

学校の先生への負担になってはいけないので、負担を取るためにも、コミュニティスクールも含め地域コミュニティへ協力要請をもう少し実施してもいいのではと思います。

【石川教育長】

協力をお願いしたい場面はありますが、現状では、コミュニティスクールについて地域にお伝えすると、学校の役割を地域に担わせるのではないかという受け止めをされることがあります。

そのため、学校からお願いをする際には、教職員の負担や現場の状況にも配慮が必要であり、慎重に進めざるを得ないのが実情です。

【深津委員】

そういうために運営委員っていう方ができるわけですね。

【石川教育長】

その通りです。コミュニティスクールは、1年、2年、3年や5年でできる話ではなくて、とにかく時間をかけていかないとはいけません。理解を得ながら広げていかないと、空中分解してしまうのが目に見えています。時間をかけて地元と学校が理解し合える体制を整えていくしかないというのが本音のところですよ。

【学校教育課長】

うまくいった例として、小学校の校舎の開閉・施錠対応があります。

シルバー人材センターの方に、朝の校門の立ち番に加えて校舎入口の開錠もお願いしたところ、ご快諾いただき、現在は朝の開錠も担っていただいています。

このように、長年の取組の中で信頼関係を築きながら、少しずつ役割を広げていくことが重要だと考えています。

【三星市長】

ありがとうございました。その他何かございますでしょうか。

それでは、これで議題の方は終了とさせていただきます。

5 その他
(発言等なし)

6 閉会